



(公財)福岡県国際交流センターの最新の移住事業をお伝えします

第10回海外福岡県人会世界大会「ルーツは福岡 夢は世界へ」～集う我ら 広がる絆～ 令和元年11月6日～9日に福岡県開催が決定！

令和元年5月29日、福岡市で「第10回海外福岡県人会世界大会実行委員会設立総会」が開催されました。海外福岡県人会世界大会は、世界24の国と地域にある39の福岡県人会が一堂に会する大会で、第10回目にあたる今回は、6年ぶりに母県福岡県で11月6日(水)から9日(土)まで開催されることになりました。会長である小川知事は、「海外福岡県人会の皆さまの活躍を広く県民の皆さまに知っていただくとともに、参加される県人会の皆さまにとって、素晴らしい大会となりますよう万全の準備をしていきたいと思っております」とあいさつしました。



【実行委員会設立総会】



【オープニングセレモニー】

また、6月18日には移住の日にちなんで、世界大会の関連事業として「海外移住パネル展」オープニングセレモニーを福岡県庁1階ロビーで開催しました。このパネル展は、6月28日まで、本県の移民の歴史や本県と海外福岡県人会との交流を県民の皆様に紹介しました。それ以降も県内3か所(飯塚市・北九州市・久留米市)での開催が予定されています。

令和元年度 福岡県移住者子弟留学生9名が福岡での新生活をスタート！

今年度の福岡県移住者子弟留学生9名が4月に来日し、彼らのルーツがあるこの福岡県で、1年間の留学生生活をスタートさせました。5月には、県庁を表敬訪問し、江口副知事からは、「皆さんが将来、福岡県とそれぞれの地域を結ぶ交流の懸け橋として、大いに活躍されることを願います。」と、歓迎のお言葉をいただきました。



【副知事表敬訪問】

留学生の紹介！

日本は、交通機関が複雑で慣れるまで困りました。この1年間は、九州大学での研究を頑張り、私のルーツである、福岡の親戚と会いたいです！

シルバー 石井 ジェゴ(ブラジル)



この1年間で様々な経験を通して、祖先のことを学び、日本語を上達させ、自分の専門である薬学の知識を増やすことを目標としています。池尻 明美 カリナ(ブラジル)

福岡市は小さな田舎町だと思っていましたが、伝統とモダンがバランスよい都会に驚きました。1年の目標は、日本語の上達と、日本文化を知り、新しい友達を作り、人として成長することです。江藤 エンヒッケ イチロウ(ブラジル)



(ブラジル)

この1年間の目標は、自分のルーツを知り、日本文化に慣れ日本語を上達させたいです。日本のコンピュータービジョンや、パターン認識の技術は母国よりも進んでいるので、大学でしっかり学び、帰国後にいかしたいです。

杉野 ニコラス アレハンドロ(アルゼンチン)



福岡に来て驚いたことは、電車がいつもすごく混んでいることです。また、漢字が読めなくて困ることもありますが、みんなの親切に感動しています。一年の目標は、できるだけ車の整備技術を身につけたいです。岩瀬 ケビン 司(ロシア)

学校の授業は難しいですが、実習もあるので楽しいです。1年間で、日本語を上達させコロンビアに帰ったら、祖母と日本語で話したいです。きっと喜んでくれると思います。

坂本 サチ アントレア(コロンビア)



私は、福岡の大学がとても好きです。たくさんの活動があり、とても興味深い授業ばかりです。日本語での会話は、非常に難しいですが、少しずつ上達しています。専門のグラフィックデザインについても、良いアイデアをたくさん学びたいです。

シバタ サウリリス アンヘル コイチ(ペルー)



日本と母国の文化は違うが、それを理解し、日本の生活を学びたいと思います。また、福岡の食事はとても美味しいです。学校の授業で使う専門用語は難しいですが、仲間が助けてくれます。寺本 飯田 利生 アルツェロ(メキシコ)

日本人は、常に礼儀正しく、お互いを尊重して行動していて、本当に素晴らしいです。この1年で、日本語をもっと学び友達を作り、自分のルーツについてもっと知りたいです。帰国後は、日本語が使える仕事をしたいです。

堀 大志(南加)

